

# 令和7年度 学校図書館活用推進実践事例

新潟市立白根第一中学校

## 1 めざす図書館運営

- ① 読書の楽しみを覚え、自ら進んで本を手取るように導く。
- ② 調べ学習などで図書館を積極的に利用する。
- ③ 小学校と連携し、次年度以降、新入生が入学してきた際により図書館を活用してもらえよう、読書や図書館への興味を高める。

## 2 実態と課題

めざす図書館運営の①、②の昨年度の様子は次のとおりである。

### ①「読書の楽しみを覚え、自ら進んで本を手取るように導く」について

昨年度は、特定の生徒が図書館に通い、継続的に本を借りていた。そうした生徒が図書館を居場所とし、すごしやすい図書館の雰囲気醸成されていた。一人当たりの年間貸出冊数は平均9冊であった。すごしやすい図書館の雰囲気は守りつつ、より多くの生徒が継続的に本を借りる状況をつくるのが課題であった。

### ②「調べ学習などで図書館を積極的に利用する」について

昨年度の調べ学習での利用状況は、国語（短歌の鑑賞）と総合（職業調べ、修学旅行の事前学習）であった。他の教科での利用を増やすことが課題であった。

### ③「小学校と連携し、次年度以降、新入生が入学してきた際により図書館を活用してもらえよう、読書や図書館への興味を高める」については、今年度からの取組となる。

### 3 実施内容

#### (1) 読書に親しむ生徒を育成するための取組

##### ①新着図書・おすすめ図書コーナー

新刊図書の紹介コーナー、季節や学校行事にあわせたおすすめの本のコーナーを設けた。特に6月は、白根地区の「大風合戦」が開催されることにあわせて、風や白根地区の歴史に関する本のコーナーを特設した。



##### ②図書館だより

司書により月1回おすすめの本や新刊を一覧したたよりを発行している。

##### ③朝読書

毎朝、朝礼前の10分間に全校読書を実施している。

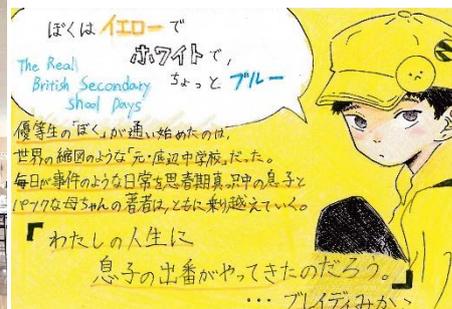
##### ④授業での取組

1、2年生の授業で、次のような読書活動を行った。

##### ①ポップ制作

夏休み課題で、本の紹介ポップの制作を行った。生徒たちは、4月から7月まで、継続的にいくつかの本を読み、その中からポップで題材にする本を選んだ。制作にあたり、本の紹介文とは別に、「心に残った一文」を抜き出すことを課題とした。生徒たちはそれをふまえつつ、イラスト等を効果的に活用しながら、自由にポップを制作した。

夏休み明けには制作したポップをクラスで見合い、感想を送り合った。また、9月中の1か月間と、50周年記念式典の際に掲示した。掲示されたポップを参考にして、次に読みたい本を見つけることができた生徒も多くいた。



### ⑥読書クイズ

9～10月に、読書クイズを行った。方法は、次のとおりである。

まず、隣の席の仲間とペアになり、一緒に本を決める。そして、その本を1冊読み切って個人で3問のクイズをつくる。作り終わったら、クイズと本を交換する。渡された本を読み切ってクイズを解き、最後に答え合わせをする。

生徒たちは、クイズをつくるため、または解くために、考えながら丁寧に読むことができた。また、ペアと本を交換することになるため、自分がいつも読んでいるジャンルとは違うものを読む機会を得た。さらに、ペアではない人のクイズに興味を持ち、その人の本を読んでもみようとする生徒もいた。

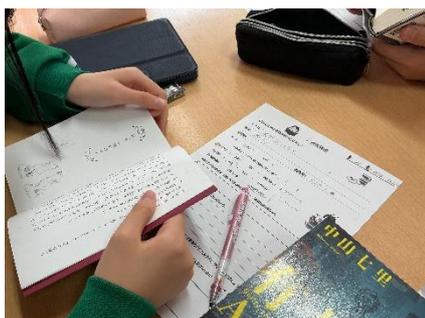
### ⑦おためし読書

12月に、おためし読書を行った。方法は、次のとおりである。

まず、準備された35冊の中から1冊本を選ぶ。その本のタイトル、作者、出版社、出版年、もくじ、まえがき、あとがきの有無、本の帯のフレーズをワークシートに記入する。

次に、8分間その本を実際に読む。8分後、心に残った一文、セリフを記入する。また、選んだ本の続きを読みたいかを4つの選択肢(①ぜひ読みたい! / ②読みたいけど……。 / ③たぶん読まないかな……。 / ④読みたくない。)から選び、その理由を記入する。

生徒たちは、普段あまり自分が選ばない本と出会うことができた。「①ぜひ読みたい!」を選んだ生徒が意欲的に借りていく姿が見られたばかりでなく、「②読みたいけど……。」を選んだ生徒も、「挑戦してみたい」と積極的に借りていく姿が見られた。



## (2) 教員と図書館の連携による「学習センター」「情報センター」としての取組

### ① 1年生の図書館オリエンテーション

初めての中学校図書館利用となる1年生に、図書館のシステムと貸し出しのルール・マナーを説明し、本を借りる練習をした。

### ② 授業での利用

- ・ 1年生の総合で、「職業調べ」を行う際、図書館にある本を活用した。教室での調べ学習となったため、資料を学年に貸し出し、少人数教室に展示ブースを設置した。この活動では、本による調べ学習の後、職業ごとにタブレットで内容をまとめて、クラスでの発表が行われた。また、仕事への興味をもってもらうため、「働くこと」が描かれている小説も展示した。
- ・ 1年生の国語で、「オリジナル説明文を書こう」という課題が出された。その際、図書館にある本を活用した。生徒は、本を参考にしながら、自分の興味のあるものについての説明文を作成した。
- ・ 1年生の国語で、「“ひと”の生き方・考え方から学ぼう」という課題が出された。その際、図書館にある新聞を活用した。生徒は、多くの新聞、記事を比べ読みしながら、「“ひと”の生き方・考え方」が書かれた記事を探し、自分の心に最も響いた記事を選んだ。その記事をまとめ、発表しあうことを通して、新聞を読むことのよさを知ることができた。
- ・ 2年生の技術で、野菜の育て方を調べる際、図書館にある本を活用した。
- ・ 3年生の社会で、新聞を利用した、メディアリテラシーに関する授業を展開した。生徒は、教員が提示した4社の新聞の社説を比較し、メディアリテラシーを高めて政治参加する重要性について学んだ。この際教員は、図書館にある新聞を利用した。



### (3) 小学校図書館との交流・連携

次の3つの取り組みについて実践した。

#### ①図書館だよりの交流

図書館だよりを送りあった。小学校の図書館だよりを中学校の図書館内に掲示した。



#### ②成果物の交流

夏休みの課題で作成した1、2年生のポップのうち、選抜した8枚を、白根小学校、小林小学校に送った。

白根小学校と小林小学校では、当校の生徒のポップを図書室に掲示し、全学年の図書の時間に、読みたいと思う本を投票してもらった。

白根小学校と小林小学校からは、おすすめの本カードを数枚送ってもらった。当校では、教務室前にそのカードと紹介された本を掲示し、全校生徒に「読んだことがある」「読んでみたい」のいずれかに投票をしてもらった。



#### ③中学校区の図書館の見学

白根第一中学校、白根小学校、小林小学校の司書が、互いの図書館を見学した。また、見学を通して次の3つの取組を行った。



##### ①分類の表示づくり

小林小学校の分類の表示を参考に、白根小学校、白根第一中学校の分類の表示を共通のものとして作り直した。3校の表示をそろえることで、中学校に進学した際も、その分類を参考にして図書館を活用することができる。

##### ②風の資料のリストアップ

3校にある風の資料をリストアップし、共通の資料やそうでない資料の有無を確認した。

##### ③児童生徒たちの読書傾向の意見交換

児童生徒がどのような本を読むのかを交流し、参考にしあった。

## 4 取組を振り返って

### ① 成果

- ・読書に親しむ生徒を育成するための取組によって、一部の生徒だけでなく、多くの生徒が図書館を利用し、本を借りるようになった。2026年1月時点で、一人当たりの年間貸出冊数は平均11冊となった。
- ・小学校との連携により、次年度入学予定の新入生に中学校図書館への興味を持ってもらうことができた。
- ・小学校から中学校への「つながり」を意識した取組を行うことができた。

### ② 課題

- ・授業での取組に限らず、生徒がより積極的に本を読めるような取り組みを考える。特に、生徒（広報図書委員会）を中心とした活動を取り入れたい。
- ・より多くの教科に図書館を活用してもらう方法を考える。たとえば、各単元と関連した図書館資料のリストアップを行い、各教科の教員が気軽に利用できるようにしたい。
- ・新入生が中学校入学した後も読書習慣が絶えないよう、小中連携のつながりを生かしつつ、年度初めから働きかけをしていきたい。